

活動名 スイゲンゼニタナゴを知ろう！守ろう！ ～郷土の生きた宝ものを地域で守る～	団体名	スイゲンゼニタナゴを守る市民の会
	地域	広島県福山市
	代表者	会長 蔵本 成洋
	支援金額	30万円
活動概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・スイゲンゼニタナゴ啓蒙下敷きを1,000枚作成し会員・マスコミを通じ頒布した。 ・スイゲンゼニタナゴの保護を訴える缶バッジ1,050個を作成し、一部頒布した。 ・スイゲンゼニタナゴの生態をビデオ記録したものをDVDにした。 ・芦田川の魚調査(主催:めだかの学校)において下敷きのパイロット版を用いて、参加したこどもたちと魚種の同定を行った。 <p>◆実施時期 2010年度全体を通じて取り組みました。</p> <p>◆参加人数 ・下敷き、缶バッジ、DVDの作成。芦田川の魚調査での指導…2名 ・下敷き、缶バッジの頒布…21名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 23名</p>		



パイロット版下敷きを持つ芦田川の魚調査参加者



採集した芦田川の魚を同定する様子
下敷きの写真と見比べる



下敷きの完成を喜ぶ
スイゲンゼニタナゴを守る市民の会会員一同



完成した下敷きをもらい喜ぶ中学生

◆実施に伴う効果

目標であった「スイゲンゼニタナゴの形態、生態、生息環境等について、下敷、映像などにわかりやすくとりまとめ、地域のイベントや学校行事等で次代を担う子どもたちに普及啓発を行い、地域と学校が連携した自然環境の保全の取り組みを促進する。」に対して

- ①地域の環境学習をしている子どもたちによる芦田川の魚調査において、パイロット版の下敷きを活用したことで、一目で魚種の同定ができることから重宝がられた。
- ②下敷きの頒布が多く新聞等で紹介されたことで、スイゲンゼニタナゴの存在を広く啓発できたと同時に、通常ではその存在を知ることが困難なスイゲンゼニタナゴに興味のある子どもたちに直接下敷きを渡すことができた。
- ③スイゲンゼニタナゴの保護について活動している本会(スゲンゼニタナゴを守る会)の会員にとって、具体的な啓発ツールを持てたことで、子どもたちや地域の人たちに直接会って、啓発活動することができた。

◆苦勞した点

下敷きを耐水性として水辺での使い勝手を良くしたり、缶バッジの種類を5種類としたりして費用が高くなったが、助成金をできうる限り作成費用のみに当てるため、下敷き、缶バッジのデザインをすべて自前で行った。その結果、デザインが完成するまでに時間がかかり、年度内の野外活動等で、完成した下敷き・缶バッジを使用できなかった。

◆今後の課題・発展の方向性

下敷きが大変好評で、手元に当会の活動で使用する200部を残して、全てもらわれていったが、さらに「是非、欲しい」との問い合わせが続いている。増刷の必要があるが、金銭的に難しいので改めて助成金を得られるよう活動する必要がある。

当会の会員には淡水魚全般に造詣の深い者から、「スイゲンゼニタナゴについてはよくわからないが地域の生きた宝ものを何とか守りたい」という者まで、いろんな意識の者がいる。これまでは、スイゲンゼニタナゴという希少種の学習会といった性格の集まりが主であったが、今後は、作った下敷きを使って、まず会員が地域の水辺の生きものに直接ふれる機会をつくっていきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

おかげ様で、当会の活動ツールを作成させていただき、会の活動を活性化することができましたし、下敷きについては広く新聞などでも取り上げていただいたので、スイゲンゼニタナゴについての啓蒙が進んだと実感しています。これもマツダ財団の助成金を得られことがあってのことです。本当に感謝いたしております。

私たちは、せっかくいただいた貴重な助成金を一過性のイベントではなく、将来への持続的活動を担保するためのツール作成に使わせていただきました。こんな使われ方が許されるなら、募集時の事例の中にそのようなものがあれば、そんな使い方をさせていただきたい団体がエントリーしてくるのではないのでしょうか。